

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270201054		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホームちぐさの家		
所在地	千葉県千葉市花見川区千種町150-1		
自己評価作成日	令和3年7月20日	評価結果市町村受理日	令和3年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和3年10月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

パンデミック！こんな非日常的な日々をどのように過ごしていただこうか？兎に角、毎日を穏やかに…変化をつけて生活していただく！ことに重きをおき、ケアをしております。またこのような状態なので運動力・認知力を維持できるように毎日のレクの時間や生活時間を利用して、体操・パズル・掃除などをなるべく多くの方に参加していただいております。外出は、なかなか叶わないので、敷地内を利用して「畑」や「花壇」を例年より多くして、一緒にお世話をし、また収穫の喜びを一緒に分かち合うようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念は「あったか空気の宿る家」で、利用者が今までの自宅の生活を継続できる環境づくりを目指し、温かくほっとできる生活を送れることを目標として支援している。また、ホームは地域との交流に積極的に取り組んでおり、地域のお祭りや避難訓練に参加したり、近隣のお店に利用者や買い物に出かけたり、ボランティアを受け入れるなどしている。コロナ禍前は、近隣の小学校の「総合学習」の活動で小学3年生の訪問があり、一緒にゲームや歌を楽しんでいた。また、災害時は発動機を2台所有していることから地域に貸し出す準備をするなど、地域と協力関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全員が常に理念に関心を持ち行動できるよう、フロア内に掲げ、それに基づいたケアを実施するように心掛けている。また新人職員教育にも盛り込み、ホームのケアの方向性を伝えている。	ホームの理念は「あったか空気の宿る家」であり、厨房や洗面所に掲示し、常に職員が意識できるようにしている。職員は入職時に理念の説明を受けるほか、日々のミーティングや個別面談の際に、理念に沿った支援ができていないか振り返りをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、近隣の小学校の「総合学習」の場として交流をしているが、ここ2年は、実施できずにいる。運営推進会議では、対面での実施は叶わないが、民生委員・社協・あんしんケアセンター・自治会などに書面にて定期的に交流をしている。	ホームは自治会に加入しており、コロナ禍前は避難訓練や地域の祭りに参加したり、認知症カフェも利用していた。また、小学校の「総合学習」で毎年小学3年生の訪問があったが、いずれも中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に参加をし、地域のまつりや避難訓練に参加するよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面でいただいた、問題点や実施事項を受け、また施設側の事故報告・問題点も伝えて、相互的に分析を行い、それらをサービス向上につなげている。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、小学校教頭、自治会、民生委員、社会福祉協議会をメンバーとして、現在は書面開催している。事前に書面で意見や要望を受け、ホームからも報告するなどして双方向となるよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議ではあんしんケアセンターと連携を図り、高齢施設課主催の研修や事故時の速やかな報告・生活保護者の現状報告などを密に行っている	地域包括支援センターは運営推進会議に出席しており、意見交換をおこなっている。市の担当課とは報告や相談をする等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を受講した参加者がフロア会議っを利用して、全スタッフに周知している。また、グループホーム連絡会などの研修もできるだけ参加し、情報を収集している。また3か月に一度「適正化委員会」を代表者で開催し現状の確認を行っている。	「身体拘束等行動制限についての取扱要領」を作成しており、千葉市の研修を受けた職員が内部講師となって、伝達研修をおこなっている。また、管理者と各フロアの委員で3か月に1回適正委員会を開催し、話し合った内容を社内研修で伝えて身体拘束をおこなわないケアにつなげている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を受講した参加者がフロア会議っを利用して、全スタッフに周知している。不適切な声掛け等のケアを発見したときは、管理者から厳重に注意をし、フロア会議を利用して再発防止に努めている。また3か月に一度「適正化委員会」を代表者で開催し現状の確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護について知識を持ち、活用できるように努めている。スタッフも小冊子などを見てもらい知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に内容について1項目ずつ説明・確認を行っている。またないようの改訂が生じた場合は文書で送ると共に家族会や訪問時を利用して、口頭でも説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会やご家族訪問時、サービス担当者会議などを利用し、意見・要望を会話の中から吸い上げる努力をしている。また施設入り口に用紙を設置あい自由に意見・要望を伝えていただくようにしている。	コロナ禍前は、家族が来訪した時や年1回の家族会で意見や要望を聞く機会設けていたが、現在は月1回の「お便り」での報告が主になっている。長期にわたり面会できない状況の中で、家族の意見から特設面会所を作り、家族からも喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度、もしくは随時面談を行い、意見・要望を聞き管理者が上司に報告している。	個別面談やフロア会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けており、意見に対するフィードバックは必要性の優先順位をつけ報告している。また、必要に応じて、法人代表者が各施設を訪問し、話を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の面談を利用したり、常に話しやすい環境を作る努力をし、各人に適正な役割を持ってもらい、それを遂行することで、自分の居場所をつくってもらうよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修の奨励や全員が気楽に学べるように内部研修を毎月実施している。日常のケアにおいても看護師や先輩職員からトレーニングを受けられる環境を作っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や運営推進会議を利用して近隣の施設と交流を図り、情報交換に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に入居前の背景を伺い、それらを十分に反映させ、ご本人の思いや希望を吸い上げ、安心して生活していただけるようなケアプランを作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が話しやすい環境を作り、入居に至る状況をきちんと把握し、ご家族の望む入居者様の状況になるように意見・要望を機器ケアプランを作成する。またそのプランを確認していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族の要望を見極め、その時々々の状況に応じてサービスが利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り生活行動を通じて共に生活することで信頼関係を築くケアを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院・外出は積極的にご家族に携わっていただき、やむを得ない場合のみホームで対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はもちろんの事、ご友人なども気楽に面会ができるよう、声掛けしている。	コロナ禍以前は家族や友人の訪問があり、馴染みの関係が途切れないよう支援していた。利用者調査でも、85%が「ホームは気軽に訪ねていきやすい雰囲気」と答えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を考え、フロアでの座席を決定している。また人間関係がうまくいくようにスタッフが必要に応じ介入し、声掛けしている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ随時、相談・支援できる関係づくりを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活やその中の会話・表情で本人の希望をくみ取るようにしているが、それが困難な場合はできるだけ希望に近い形となるように何度も面談で確認しケアプランにつなげている。	希望や意向は家族から情報を収集するとともに、利用者の話を傾聴している。困難な場合は選択肢を用意したり、居室で話を聞く時間を設ける等して、本人の希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者だけに留まらず、ケアマネ・ご家族・本人から情報を収集し、スタッフ全体で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日様子を観察し、現状の把握を行う。特変があれば、申し送りや申し送りノートを活用したり、フロア会議で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議でカンファリングを行い、それをケアプランに反映している。また「サービス担当者会議」を行い、家族に確認を取っている。月2回の往診時や週1回の看護師訪問時に看護師・往診医・薬剤師に適切な支持を仰いでいる。	月1回のフロア会議でモニタリングし、利用者の心身状況に変化があった場合は、随時カンファレンスを開催している。サービス担当者会議には、家族、管理者、ケアマネジャー、介護職員、看護師、必要に応じて医師が参加して話し合い、現状を反映した介護計画につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フロア会議でのカンファレンスや管理日誌などを利用し、常に特変などに敏感に反応してケアの方向の確認、見直しをスタッフ全員で行い、それをケアプランに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣で済ませることができる嗜好品等の買い物は、同行している。また、それが叶わない人は、スタッフが代行するなどして、できるだけ諦めないサービスにとりくんでいる。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園への散歩や、近隣の住人とのちょっとしたコミュニケーションの機会を作っている。またコンビニへの嗜好品の購入、自治会主催のカフェなども訪問する機会も作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院との連絡を密に取り、特変があったときには、すぐに対応してもらい関係を作っている。また提携以外にも入居前からのかかりつけ医にも自由に受診できるように支援している。	入居時に本人や家族の希望を聞いて、かかりつけ医を決めており、入居前のかかりつけ医の受診も自由である。かかりつけ医の受診は家族同行の場合も通院同行を支援した場合も、情報共有に努めており、内容は職員間でも共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が休日でも、電話(メール)にて連絡ができる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご家族だけに任せず、施設としての見解もしっかり伝え、都度確認する。入院後はより関係を密に持ち、ご家族と連絡をとり情報を共有するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が重度化してきた際には、ご本人の意見や家族の希望を尊重し、看護師とは連絡を常に取り、主治医と相談の上方針を決定する。看取りになった場合はケアプランを見直し、看護師に研修を開催してもらい、全スタッフでケアを共有し最期に備える。	入居時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を説明して意向を確認し、入居後も毎年確認している。利用者の状態に変化があった時点で、医師・看護師が説明して今後について決めている。また、看護師による看取りの研修を実施し、チームで支援できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	嚔下状態の悪化などが発生したときは、看護師による研修を行っている。また必要に応じ訪問医(歯科医も含む)より指導を受けている。社内研修においても年に1回研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を消防署を交えて行っている。1回は消防隊からの指導を受け、2回目は復習として想定を設定の上、自主的訓練を行っている。また地域の訓練にもできる限り参加している。	年2回の避難訓練には利用者も全員参加している。うち、1回は消防署立会いの下でアドバイスを受けながら実施している。発動機を2台保有しており、地域に貸し出すことも想定している。食料品の備蓄は、各フロアに担当職員を配置し、賞味期限の管理をしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け・対応に一番重点を置き配慮している。新入社員にもいちばんの重要事項であることを説明し、理解を求めている。	利用者の人格を尊重したケアに努めており、威圧的な声掛けなどには特に注意を払っている。また、利用者のプライバシーに関することは、他の家族などに話さないことについても徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に押し付けることなく、急がずことなくスタッフは待てる体制を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた支援を心掛けている。また日々の談笑の中に本人の希望を見つけ、支援につなげている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師を受入れ散髪・整髪している。また本人の行きつけ床屋も家族対応で利用している。居室担当が各居室をチェックし洋服・下着等の補充も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じた、出来る事を探し、食材のカット・盛り付け・調理などを職員とともに毎食・おやつ時に行っている。	利用者は食材を切ったり盛り付けるなど、できることに参加している。月に3回は利用者の好みを聞いて献立に反映するようにしている。また、利用者の好みの味付けに近づけるよう努めている。仲の良い利用者同士と一緒に食事ができるようにするなど、食事の時間が楽しくなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎回摂取時にチェックをし、不足している時は、時間をずらし補充提供する。また、咀嚼・嚥下に問題のある方はその方に合わせた形(きざみ・とろみ・お粥)で提供する。食事の摂取が難しくなってきたときには、栄養補助食品の提供をすばやく対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に歯磨きを促し、一人ひとりに合った口腔ケア(スポンジブラシ・歯間ブラシ使用)を行っている。また訪問歯科と連携を取り、口腔内を良好な状態に保つよう努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して共有する。おむつに頼らずできるだけトイレでの排泄を促している。失禁のある方はすぐにリハビリに移行せず。綿のパンツにパッドを使い対応する。	排泄チェック表にて利用者個々の排泄パターンを把握し、職員間で共有している。トイレでの排泄を大切にしており、重度化しても立位が保てる利用者であれば、職員二人体制でトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活の中でできる限り体を動かす時間を設け、水分量をチェックし十分な水分摂取を促し、できるだけ自然排便を促している。また必要に応じて腹圧をかけるなどしてマッサージも行い、最終手段として排便コントロールの上、下剤・浣腸(看護師)を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴実施をしているが、希望しない方には、日時を変えるなどして気持ちよく入浴してもらえるように対応している。また、声掛けも工夫している。	入浴は1日おきを実施しており、利用者個々のタイミングや身体状況を考慮して入浴支援している。入浴したくないという場合も、さりげない声かけや職員の連携で対応している。また、重度化した利用者には職員2名体制で対応し、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に十分配慮し、希望に応じて休息をとれるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服用している定期薬の名前・効果・効用・副作用を閲覧できるようにしており、症状によっては、主治医・看護師・薬剤師と相談の上、定期薬変更や追加を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に好んで行っていた趣味などを継続的に行える環境を提供している。また生活の中に見受けられる可能性から、楽しんで行える事探しをし気分転換に結び付けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力もいただき、出来るだけ希望に沿った買い物などができるよう支援している。施設では特に季節を感じることに重きを置き、外出を実施している。	コロナ禍以前は、天気の良い日は散歩に出かけ、家族の協力も得て、車いす対応の利用者の買い物も支援していた。また、年2回バス旅行を企画して、漁港、花摘み、お花見など季節を感じられる機会を多く設けていた。	コロナ禍で、難しい状況ではあるが、外出は利用者にとっても楽しみと思われる。工夫しながら、少しずつできることを考えることも期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物目的とした外出の機会を作り、好きなものを選び、お金を支払う！ことを実施して、買い物の楽しさや使い方を忘れないように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、ご本人様やご家族の希望により、各居室に固定電話を設置可能にしてある。また施設の電話も希望のある方には使っていただいている。手紙に関しては、送られてきた物はすぐにご本人に渡し、宛名が書けない方には、スタッフが代筆するなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は毎日掃除をして清潔を保ち、居心地の良い空間になるように心掛けている。フロアでは音楽をかけて雰囲気作りを行っている。また玄関やフロアには四季折々の花や装飾など季節感のある演出を心掛けている。	共用空間にはソファなどを置いて、仲の良い利用者同士でおしゃべりを楽しむ姿が見られる。1階にはウッドデッキがあり、天気の良い日は外気浴をすることもある。また、季節の花を飾るなど居心地のよい空間をつくっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには、あちこちにソファやいすを置き自由に座っていただいたり、皆さん一緒にテレビを観たり新聞・雑誌をみたりできる場所を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具をお持ちいただき、ご家族の写真や飾るなどして、自宅にいたときと同じように過ごせる環境作りを実施しています。	居室には利用者が使い慣れた家具や家族の写真を持ち込んでいる。室内の動線については家族と相談して家具等の配置を決め、転倒リスクを防ぐようにしている。また、手芸道具やDVDのデッキを持ち込み、趣味を楽しんだり、植物を置いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置により安全を確認しつつ、自立した生活を送れるように工夫しています。		